1 インフォームドコンセントについて**誤っている**のはどれか。

a 免責文書となる。

b 患者の権利である。

c 医師の義務である。

d 平易な言葉で説明する。

e 患者は、いつでも撤回可能である。

2 意思表示できない患者の代諾者について、**誤っている**のはどれか。

a 患者の利益を代弁できる人が選ばれる。

b 親族以外も代諾者になることができる。

c 患者の推定意思を理解している人が選ばれる。

d 認知症患者の場合、介護している血縁者が代諾者となる。

e 患者が未成年者の場合、代諾者の他に患者本人にも説明する。

3 医療面接の感情面への対応で**誤っている**のはどれか。

a 共　感

b 肯　定

c 指　示

d 尊　重

e 反　映

4 僧帽弁狭窄症の重症度別聴診所見の模式図を示す。
軽症、中等症、重症の順に並んでいるのはどれか。

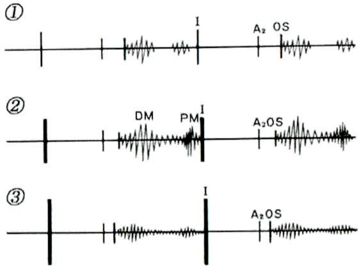
a ①・②・③

b ②・①・③

c ③・②・①

d ③・①・②

e ②・③・①



僧帽弁狭窄症の重症度別聴診所見の模式図

5 失神発作を起こし**にくい**のはどれか。

a 肺塞栓症

b 徐脈性不整脈

c QT延長症候群

d 大動脈弁狭窄症

e 僧帽弁閉鎖不全症

6 血便を来たし**にくい**のはどれか。

a *Campylobacter jejuni*

b *Escherichia coli* O157:H7

c *Klebsiella oxytoca*

d Norovirus

e Salmonella属

7 **誤っている**のはどれか。

a 閉塞性黄疸では、灰白色便となる。

b クールボアジェ徴候は、胆嚢炎に特徴的である。

c 胆嚢炎では、腹痛、発熱、黄疸が特徴的である。

d 閉塞性黄疸では、直接ビリルビンが優位に上昇する。

e 急性化膿性胆管炎では、腹痛、発熱、黄疸、ショック、意識障害が特徴的である。

8 髄膜刺激徴候はどれか。

a Kernig徴候

b Patrick徴候

c Lasegue徴候

d Myerson徴候

e Queckenstedt徴候

9 診察方法として打診がふさわしいのはどれか。

a 肝肺境界

b 筋性防御

c 頸部硬直

d 心尖拍動

e 浮　腫

10 **誤っている**のはどれか。

a 同一の検査で感度を上げると特異度は下がる。

b 病気の人が検査で陰性となる割合を偽陰性率という。

c ROC曲線は「感度」と「1－特異度」により描かれる。

d 病気の人のうち検査で陽性となる割合を陽性反応適中度という。

e 病気でない人を正しく「病気がない」と判定する割合を特異度という。

11 突然の激しい頭痛で発症した患者に対してまず行なうべき検査はどれか。

a 脳 波

b 頭部CT

c 頭部MRI

d 腰椎穿刺

e 脳血流検査（SPECT）

12 高カロリー輸液を行うための穿刺に適した血管はどれか。

a 鎖骨下動脈

b 下大静脈

c 橈側皮静脈

d 大腿静脈

e 膝窩静脈

13 介護保険制度について**誤っている**のはどれか。

a デイサービスの内容は、訪問による配食や入浴を含む。

b 60歳以上では疾患に限定なく保険給付の対象となる。

c かかりつけの医師が必要と認めた場合に訪問看護を受けることができる。

d 火災報知器・自動消火器を日常生活用具の給付として受けとることができる。

e 家族の介護疲れを癒すための休養や旅行もショートステイ利用の対象理由となる。

14 チーム医療の実践で正しいのはどれか。

a 自分の専門外については関与しない。

b 最終的には医師の判断が優先される。

c 医師は良好な人間関係の構築に努める。

d 全てにおいて患者の意思が最優先される。

e 医師以外の医療従事者には責任は及ばない。

15 禁煙治療で保険診療の条件に**ならない**のはどれか。

a Tobacco Dependence Screener (TDS) 5点以上

b 本人が直ちに禁煙しようと考えている。

c Fagerstrom Test for Nicotine Dependence (FTND) 10点以上

d Brickman index 200以上

e 禁煙治療を受けることに文書で同意している。

16 54歳の男性。非小細胞肺癌Ⅳ期の患者である。再発に対してゲフィチニブで治療を行っていたところ、代替療法を行っていたことがわかった。

正しい対応はどれか。

a 代替療法によって何を期待したかを聞く。

b 代替療法が良いのなら、それを続けるようにいう。

c 代替療法を続けるなら、治療に責任が持てないという。

d なぜ主治医に一言の断りもなく代替療法を始めたかを聞く。

e 代替療法はevidence-based medicine （EBM） はないので止めるように言う。

17 65歳の女性。心筋梗塞にて入院中のところ、深夜に38℃の発熱がみられた。

尿検査の結果、尿路感染症が疑われ、尿培養と血液培養とを行った。次いで抗菌薬の投与を開始することにした。

適切なのはどれか。

a 感受性試験は省略する。

b 患者には睡眠薬を服用させる。

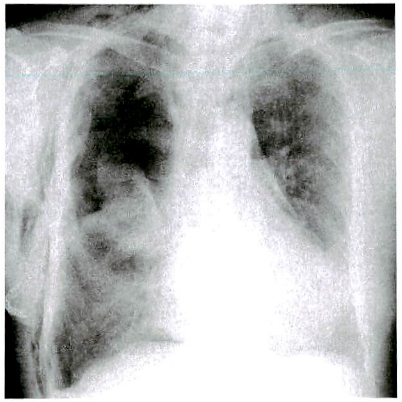
c 深夜なので経口の抗菌薬を選択する。

d 尿培養と血液培養は冷蔵保存する。

e 看護師への指示票の発行は翌朝落ち着いてからにする。

18　64歳の男性。肺癌のため、右上葉切除術及び縦隔リンパ節郭清が行われた。術後経過は順調で、第３病日目の午前に胸腔ドレーンを抜去したが、夕方になり咳嗽が出現した。

胸部エックス線写真を示す。



胸部エックス線写真

身体所見で**みられない**のはどれか。

a　皮膚の握雪感

b　打診での鼓音

c　声音振盪の減弱

d　肺胞呼吸音の減弱

e　fine cracklesの聴取

19　70歳の男性。突然の腰痛が出現し、一時的な意識消失がみられた。５年前より高血圧症を指摘されており近医で内服薬を処方されていた。来院時、意識はやや混濁。身長164cm、体重60kg。体温36.6℃。脈拍114/分、整。血圧88/64mmHg。心音、呼吸音ともに異常は認めない。腹部はやや膨隆し、圧痛を認めた。腸蠕動音は減弱していた。四肢に冷感を認めた。

まず行う検査はどれか。

a　注腸検査

b　頭部単純CT

c　腹部造影CT

d　腰椎単純MRI

e　上部消化管内視鏡検査

20　アナフィラキシーショックの際にまず投与すべき薬剤はどれか。

a　アスピリン

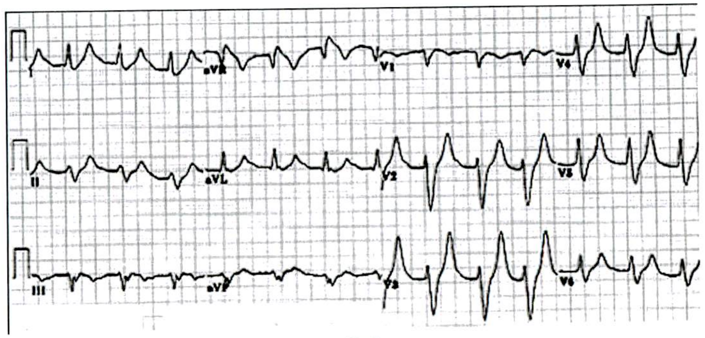
b　アドレナリン

c　アミノフィリン

d　ヒドロコルチゾン

e　マレイン酸クロルフェニラミン

21　57歳の男性。呼吸困難のため搬送された。意識は清明。体温37.9℃。呼吸数32/分。脈拍100/分、整。血圧168/90mmHg。心音にはIII音を聴取し、肺野に湿性ラ音を認めた。下肢に浮腫を認めた。尿所見：蛋白(1+)、糖(2+)、潜血(−)。動脈血ガス(自発呼吸、room air) 分析：pH 7.30、PaO_2 68 Torr、$PaCO_2$ 37 Torr、HCO_3^- 9 mmol/ℓ。血液所見：白血球 9,000、赤血球 280万、Hb 8.9 g/dℓ、血小板 12万。血液生化学所見：アルブミン 3.3 g/dℓ、尿素窒素 90 mg/dℓ、クレアチニン 8.1 mg/dℓ、Na 138 mEq/ℓ、K 7.1 mEq/ℓ、Cl 103 mEq/ℓ、血糖 110 mg/dℓ。下記の心電図を認めた。



心電図

投与すべき薬剤はどれか。

a　ジゴキシン

b　生理食塩水

c　スピロノラクトン

d　速効性インスリン

e　グルコン酸カルシウム

22　72歳の女性。自宅の畳の間で座布団につまずいて転倒し、左股関節痛のため起立、歩行が不能となって救急車で搬送された。股関節のエックス線検査の結果、左大腿骨転子部骨折と診断された。著しい疼痛を訴えるが、バイタルサインに異常はなく、特記すべき既往もない。

この患者に**見られない**所見はどれか。

a　外旋変形

b　屈曲拘縮

c　皮下血腫

d　患肢の短縮

e　患肢挙上不能

23 73歳の男性。右白内障手術の目的で入院した。術後２日目より、深夜に突然ベッド上で体を起こして大声で叫んだり、ベッドから何度も降りようとしたりすることが頻繁にみられるようになった。看護師が訪室すると、「壁にアリがたくさん這っている」と険しい表情で話した。翌朝、本人に尋ねてみると、「そうした行動は記憶にない」と答えた。日中は傾眠がちとなり、テレビをつけていても自然と寝入ってしまうことが多い。妻によると本人は元来酒が好きで、この５年間は毎日日本酒３～５合は飲んでおり、日によっては朝から飲んでいることもあるという。入院前までは奇妙な言動や行動はみられなかった。

この患者の異常行動について正しいのはどれか。

a　治療にはジアゼパムが使用される。
b　断酒を続けても持続することが多い。
c　入院後に精神病を発症したと考えられる。
d　白内障の治療に対する不安感が主な原因である。
e　早期に抗酒薬を用いることで発症が予防できる。

24 28歳の男性。５日前から38℃の発熱が持続し、２日前にかかりつけの医院を受診した。心雑音が聴取され、血液培養にてグラム陽性球菌が認められたため、大学病院へ紹介された。意識は清明、体温39℃、脈拍102/分、整。血圧100/36mmHg、収縮期および拡張期に心雑音を聴取した。

今後の方針として最も適切なのはどれか。

a　隔離施設のある病院を紹介する。
b　外来通院での治療を行う。
c　かかりつけ医へ逆紹介する。
d　入院にて治療を行う。
e　ホスピスを紹介する。

25 36歳の女性。右乳房の疼痛を主訴に来院した。右乳房に限局した発赤があり、熱感と圧痛を認める。体温37.1℃。血液所見：Hb 12.2 g/dℓ、白血球9,800、血小板14万。免疫学所見：CRP 6.4 mg/dℓ。乳腺超音波検査にて、境界明瞭で内部に流動性のある腫瘤影を認めた。

正しいのはどれか。

a　抗菌薬投与が根治療法である。
b　Paget病との鑑別が必要である。
c　穿刺吸引細胞診にて確定診断を行う。
d　治療には切開ドレナージが有効である。
e　発生のピークは40歳代である。

26 40歳の男性。抗けいれん薬内服１週間後から、図１に示すような皮疹が急激に全身へ拡大した。39℃台の発熱、白血球12,300、血小板７万、AST 451 IU/ℓ、ALT 563 IU/ℓ、CRP 12.4mg/dℓなどの異常を認める。

まず行うべき事はどれか。

a　輸　血
b　患部の消毒
c　抗菌薬の投与
d　抗けいれん薬の中止
e　副腎皮質ステロイド薬外用

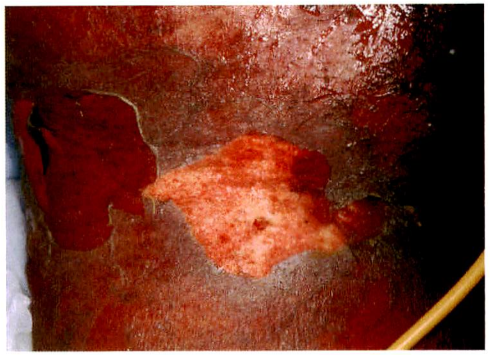


図１

27 70歳の女性。40歳代からパーキンソン病に罹患し、治療が行われているが、現在Yahr５度の状態である。顕著な認知症はなく、ONの時間であれば簡単な会話はできる。かろうじて食事は経口摂取できていたが、最近誤嚥が多く、摂取量も低下し、体重も著明に減少してきている。入所中の施設の職員は経管栄養をすすめているが本人は拒否している。外来受診時に、主治医からこのままでは栄養が不十分となり、致命的になりうることを説得したが、「現在のADLの改善が望めない以上、口から食べれなくなったらそこまででよい」と経管栄養導入を拒否している。

患者の希望はどれか。

a　慈悲殺
b　消極的安楽死
c　積極的安楽死
d　延命治療の中止
e　医師による自殺幇助

28 63歳の男性。大腸癌の末期で入院中であり、余命三か月程度と考えられる。
この患者への対応として**適切でない**のはどれか。

a　患者本人による決定を基本として、終末期医療を進める。
b　多専門職種の医療従事者から構成される医療チームが対応する。
c　患者の意思が変化することに留意し、患者の意思の再確認を行う。
d　患者の意思が確認できない場合、家族による患者の推定意思を尊重する。
e　患者の家族からの積極的安楽死の希望を承諾する。

29 29歳の男性。会社の検診で肥満と高血圧を指摘されて来院した。身長165cm、体重95kg。血圧155/95mmHgであった。

次に患者と医師の会話の一部をあげる。

医師 「今回受診された理由をお教え下さい。」

患者 「検診でひっかかって、受診するようにいわれたので。」

医師 「そうですか。今心配なことはありますか？」

患者 「肥満と血圧が高いことです。」

医師①「そうですね。この値はちょっと心配ですね。」

患者 「そうですか。」

医師②「高血圧や肥満が続くと将来の心臓病や脳卒中などの大きな病気につながります。いまからしっかり取り組んでいい状態を維持できるようにすることが大切です。」

患者 「はい。…」

医師③「ご自分で体重増加に関係する行動が思い当たりますか？」

患者 「やはり夜22時過ぎに夕食をたくさんたべることでしょうか。」

医師④「そうですね。それを何とか改善する方法はあるでしょうか？」

患者 「会社で早く夕食を食べられるといいのですが。…」

医師⑤「それは是非やってください！」

患者 「…」

患者の行動変容に**有効でない**医師の発言はどれか。

a ①

b ②

c ③

d ④

e ⑤

次の文を読み、30～31の問いに答えよ。

26歳の女性。3か月前に男児を出産した。2か月前より腹痛、下痢、粘血便を認め、近医より整腸薬を処方され内服するも改善がみられず来院した。身長158cm、体重46kg。体温37.2℃。腹部：平坦、軟。左下腹部に圧痛を軽度認める。血液所見：赤血球320万、Hb 9.5 g/dℓ、Ht 31％、白血球9,800、血小板38万。血清生化学所見：総蛋白5.8 g/dℓ、アルブミン3.0 g/dℓ、AST 23 IU/ℓ、ALT 25 IU/ℓ、Fe 18 ng/mℓ、ESR 38 mm/hr。CRP 2.3 mg/dℓ。

30 診断に有用なのはどれか。

a 便培養

b 小腸造影

c 腹部超音波

d 腹部造影CT

e 大腸内視鏡検査

31 治療として適切なのはどれか。

a 抗菌薬

b 外科手術

c 放射線療法

d 抗TNF-α抗体

e 5-アミノサリチル酸製薬